

梅之木通信

【縄文住居をつくる会】

第31号 2022.05.16 発行

4号棟完成式と餅つき大会

世話人たちは、前日まで天気予報を何度も確認しながら当日の天候を心配しましたが、前夜からの雨も朝にはあがり、理科室メンバーの協力を得て、餅つき大会を兼ねた完成式を無事おこなうことができました。いつもの同好会メンバーばかりではなく、ふるさと倶楽部の会員の方にも多く参加していただくことができ、梅之木遺跡が初めての人たちには石斧での伐採の体験もしてもらいました。わずかな時間でした、伐採樹木が倒されるまで、縄文住居建設の一部を味わってもらう事もできたのではないかと思います。その他、佐野さんの繋がりから、東北などからの学生さんたちや研究者なのか？京都から来ていた外国人、映画監督など、参加者は40名以上になり、未だかつてない大イベントになりました。老体に鞭打ちながら5ウスの餅をつき、あんこ、きなこは言うまでもなく、枝豆をすりつぶしたずんだ、ごま、くるみ、大根おろしに小エビまであり、トッピングの味を変えては食べ、変えては食べ・・・おなかをはちきれんばかり。その上に、きのこ汁といつものながらの豊富な食材を味わい尽くした一日になりました。

☆ 餅つき風景



大忙しの餅作成部隊



きっと初めての体験？



縄文映画監督も参加

☆ 完成式と地鎮祭



搗き立て餅をお供え



完成を感謝して祈り



5号棟建設予定地も変更？

☆ 4号棟完成にむけて

・入口のすだれ造り

入口扉の内側にすだれを作成しました。
杉板を細くし、裏表に張り付けて強度を補強。
一枚ずつ編み込んですだれ状に作製します。
佐野さんのOKも出て、
やっとすだれが完成。
今までにも増して、
完成度が高まりました。



・薪棚の作成



枝を結んで、薪棚を作成します。炉の真上につるして燻製を作成したり、薪を乾かすために使う棚として使ったのではないかと想像しながら作ります。
炉で火を焚いた時、煙がうまく天窗から抜けるかどうかを検証しつつ、棚を吊るす場所や高さを試して吊るす位置を決めます。まだ皮を剥いたままの枝が真っ白



ですが、炉を使い込んでいくうちに、徐々に煤がついて味わいのある色合いになって行くのではないかと期待しています。

・最後の微調整

最後の最後まで、調整が続きます。入口壁の隙間から光が漏れていると、気になってしまいます。杉板で塞ぎ、上から土を被せてやっと完成！あとは完成式を待つばかり。
下の道からも梅之木遺跡が目立つように、明野のひまわり畑に負けないように、と、西側の斜面にひまわりの種を植えました。夏にはどのような風景になるか楽しみです。



4号棟の完成式も終わり、残るは5号棟の建設のみとなりました。

今週からは、この5号棟の作業が始まりますが、新たなメンバーの参加もあり楽しみなところです。3号棟の建設から始まり、4号棟の建設ではその技術は熟練を重ねて縄文技術集団に成長してきたように思います。さらに5号棟建設ではどのように進化していくのか・・・

新たなスタートですが、怪我や無理のないようにしておおいに楽しみましょう。